

冒険教育プログラム体験が大学生の「自ら学ぶ意欲」に与える影響

寺本 育生(生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 黒澤 毅

キーワード：冒険教育プログラム 大学生 自ら学ぶ意欲

1. 序論

青年期の若者に自ら学ぼうとする意欲が薄れている中、知的訓練の中核を占める大学は学生に学ぶ意識を高く持ち主体的に取り組む態度を求める必要がある。冒険教育はますます希薄化する人と自然、人と人、人と文化との関わりを憂慮しなければならない時代における個の存在価値を求めるべき主体的活動として、その役割は大きい¹⁾。

そこで本研究では、冒険教育プログラム体験が大学生の「自ら学ぶ意欲」に与える影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【被験者】平成23年9月10日～16日にB大学で野外を専攻する学生を対象に実施された専門実習に参加した3年次生16名(以下、実験群)と、同大学の野外専攻以外の3年次生19名(以下、統制群)を対象とした。実習の主なプログラム内容を表1に示す。

表1 プログラム概要

1日目	縦走登山	5日目	日本海カヤック
2日目	縦走登山	6日目	オーバーナイト
3日目	40kmハイイク	7日目	ハイイク
4日目	日本海カヤック		

【調査方法】

①自ら学ぶ意欲測定尺度：自ら学ぶ意欲を測定するため、桜井²⁾が作成した大学生用“自ら学ぶ意欲測定尺度(3レベル7因子35項目)”を事前授業前(pre1)と実習1ヶ月後(post2)に実験群と統制群に調査を行った。また、実験群のみ実習前日(pre2)と実習直後(post1)に調査を行った。

②ふりかえりシート：実習中の内的動向を掴むため、筆者が独自に作成した自由記述形式による調査用紙を毎日の活動終了後に行った。

③自己分析シート：実習のどのような体験が影響を与えたかを知るため、筆者が独自に作成したものを使用した。本シートは実習前後の得点差から、その要因を自由記述形式によって回答するもので、調査を実習1ヶ月後に行った。

3. 結果と考察

①実験群の自ら学ぶ意欲得点の平均と標準偏差及びWilcoxonの符号付順位和検定結果を表2に示す。

表2 自ら学ぶ意欲得点の平均と標準偏差及びWilcoxonの符号付順位和検定結果

レベル	因子名	N	事前授業前				実習直後				Z値
			(5/31)	(9/9)	(9/16)	(10/17)	(9/16)	(10/17)	(10/17)	(10/17)	
欲求	有能さへの欲求	16	21.38(2.73)	20.68(3.30)	20.94(2.89)	21.37(2.15)					
	知的好奇心	16	20.43(2.38)	19.93(2.64)	20.56(2.31)	20.00(2.28)	-1.807 †				
	深い思考	16	18.50(2.80)	18.12(1.93)	19.38(2.28)	18.31(2.47)	-2.414 *				-2.099 *
学習	独立達成	16	17.81(2.51)	17.31(2.15)	18.25(3.09)	18.81(3.45)					-2.125 *
	積極探究	16	18.43(3.31)	15.81(2.01)	18.13(2.85)	17.38(2.86)	-3.081 **	-1.800 †			-2.344 *
	おもしろさと楽しさ	16	19.18(3.76)	18.06(3.66)	19.00(3.48)	18.75(2.80)					
認知・感情	有能感	16	12.06(2.48)	11.68(2.89)	13.62(3.63)	13.25(3.34)	-2.514 *				-1.788 †

†0.05<|10log₁₀(0.05)**p<0.01

その結果、pre2-post1間で深い思考、積極探究、有能感因子に有意な向上がみられた。その理由として、登山活動で全員が迷ってしまい、自分たち

の認識の甘さに対して全員で話し合った。傷のなめ合いをするのではなく、その後の活動に向けて情報を共有し協力して活動目的を達成することができた。このことが3つの因子得点の向上に影響していると考えられる。

②ふりかえりシートの記述より、自ら学ぶ意欲についてレベルごとにまとめると以下ようになる。「明日は今日の3倍の距離を漕ぐので自分に負けず、頑張りたい。」などの自由記述から、『スキルへの欲求』という記述の共通点と特徴をまとめ、「皆がいたから頑張れて、スタッフの方のサポートがあったからこそ出来ました。」などから、『協力する』、また、「正直とても疲れたけど、ゴールにつけた時の達成感は素晴らしいものがあった。」などから、『自信の獲得』とまとめた。このようなことから、「自ら学ぶ意欲」を向上させる結果になったと考え、概念図を作成した(図1)。

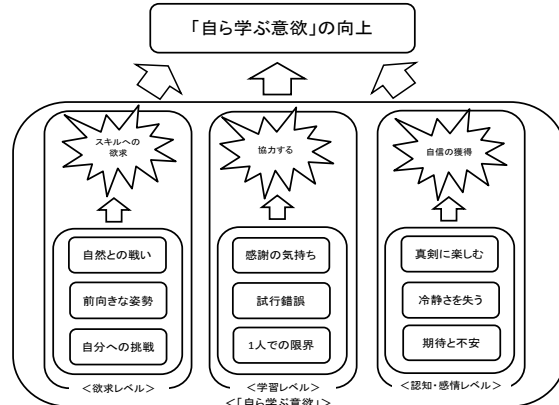


図1 大学生の「自ら学ぶ意欲」に与えた体験要素モデル

③「自分の限界を自分で決めていたが、やってみるとできたから。」や「キャンプ前は少し興味がある程度だったが、様々なものに興味が湧き積極的になれたから。」などの自由記述が多くみられた。このことから、『進歩感』や『向上感』を実感できたことが、「自ら学ぶ意欲」を向上させたと考えていた。また、活動全てにおいて目的を達成した際に仲間と喜びを共感し合い、周囲からの賛辞があったことも向上の要因として考えられる。

4. まとめ

冒険的な活動では、予想のつかない厳しい環境の中で身をもって危険を感じる。この肉体的にも精神的にも困難な状況を主体的に向き合い、仲間と協力して成し遂げる達成体験から有能感を得て自信を獲得し「自ら学ぶ意欲」が呼び起こされ、向上していくことが明らかになった。

参考文献

- 小泉紀雄 (2001) 野外活動における冒険プログラムの役割について キャンプ研究 第5巻:pp.35-40.
- 桜井茂男・大内晶子・及川千都子 (2009) 自ら学ぶ意欲の測定プロセスモデルの検討 筑波大学心理学研究第38号:pp.61-71.